

## 出生と気象との関連 (第1報)

野々部定祐\*・野々部 恒\*\*

(昭和57年9月30日受理)

### The Relation of Birth to Weathers (The 1st Report)

Sadasuke NONOBE and Kō NONOBE

(Received September 30, 1982)

#### 1 地域と資料

熊谷保健所は熊谷市を中心として隣接する大里郡・江南村・大里村・妻沼町の三町村を含んだ埼玉県の保健所である。熊谷市は国鉄高崎線の熊谷駅の主として東方に開けた中都市である。昭和52年には人口13万余である。駅の西方はかつて堤外と言われ、荒川の氾濫で、しばしば水没したが、最近立派な堤防ができて水没しなくなったので、新しく繁華街が発達しつつある。荒川を隔てて南に大里郡の江南村と大里村とがあり、更に江南村の西部・南部は東松山市に、大里村の南部は吉見町に接している。熊谷市の東方は一部は行田市に、大部分は南河原村に接している。行田市と南河原村は行田保健所の管内である。熊谷市の北方は妻沼町に接し、妻沼町は利根川を隔てて、群馬県の太田市に接しているが、一部は利根川を越えて、北岸にまで広がっている。これは利根川の本流が流路を時に換えた為である。

大里村は人口、約7千弱、江南村は人口9千余、妻沼町は人口、約2万3千余であるから、熊谷市と合計では人口は17万前後である。

保健所法、第二条の四により、保健所は人口動態統計を所管している。各市町村に出生・死亡・婚姻等が届けられると、それは保健所を通して、都道府県に連絡され国まで行って、種々の人口統計の資料となると同時に保健所の段階で、このデータによって、母子衛生、老人衛生等に素早く対策が立てられるようになっていし、それが一般に利用できるように保健所年報を毎年発行して、広報している。

人口が出生と死亡との差で増加するのを自然増と言い、人口の移動によって増加するのを社会増と言うが、その年の自然増と社会増との和が、その年の人口の増加である。この方法によって毎年、前年の人口より本年の人口を推計し、10年に一度宛、1965年以来、国勢調査により補正している。

たとえば、人口13万余の熊谷市では国勢調査の人口は推計されたものよりも、調査の度毎に、約1万程度、多いと言う。この国勢調査の人口と、この人口から毎年の推計人口が算出され<sup>1)</sup>、地方交付税の根拠となっている。保健所に保存される出生票には父母および本人の名、国籍、生年月日、出生時体重、双生児か否か、家族の職業は六つに分類されて、1から6までの数字で記録されている。すなわち、職業1は専業農家であり、職業2は兼業農家である。職業3は自営業者、職業4と職業5とは勤労者であるが、職業4は頭脳労働を主とするホワイトカラーであり、職業5は筋肉労働を主とするブルーカラーである。職業6は、その他で、すなわちたとえば、僧侶、牧師等である。

#### 2 観察方法及び結果

埼玉県熊谷保健所の年報の資料となる出生票等の保健所の資料によった。熊谷保健所管内の出生数の昭和48年より52年までの5年間の出生数を見れば、表1の如くである。季節指数は  $\frac{\text{各月平均}}{\text{全期間平均}} \times 100$  で計算した。<sup>2)</sup>

ついで、職業1、職業2、職業3、職業4、職業5、職業6について昭和48年より52年までの5年間の出生数を記録し、その季節指数を前述の同じ方法で作れば、表2から表7までの六つの表の如くなる。

\* 栄養学第一研究室

\*\* 国際学院

野々部定祐・野々部恒

表1 熊谷保健所管内の出生の季節指数

年	48	49	50	51	52	計	平均	季節指数
1 月	251	276	238	260	203	1,228	245.6	99.4
2 月	275	212	247	235	209	1,178	235.6	96.5
3 月	265	261	219	241	216	1,202	240.4	98.4
4 月	255	284	240	253	198	1,230	246.0	100.7
5 月	277	256	243	201	245	1,222	244.4	100.0
6 月	251	247	226	218	216	1,158	231.6	94.8
7 月	266	293	264	252	232	1,307	261.4	107.0
8 月	268	273	269	265	249	1,324	264.8	108.4
9 月	278	298	247	237	210	1,270	254.0	104.0
10 月	262	291	252	228	253	1,286	257.2	105.3
11 月	240	244	216	206	206	1,112	222.4	91.1
12 月	250	250	222	216	188	1,136	227.2	93.0
計	3,148	3,185	2,883	2,812	2,625	14,653	244.22	

表2 職 業 1

年	48	49	50	51	52	計	平均	季節指数
1 月	15	11	5	11	5	47	9.4	122.9
2 月	17	12	6	13	5	53	10.6	138.6
3 月	4	11	10	5	2	32	6.4	83.7
4 月	10	12	8	6	8	44	8.8	115.0
5 月	10	4	3	4	5	26	5.2	68.0
6 月	10	11	6	3	4	34	6.8	88.9
7 月	3	10	12	8	3	36	7.2	94.1
8 月	7	4	9	4	9	33	6.6	86.3
9 月	9	10	8	2	2	31	6.2	81.0
10 月	13	12	7	5	6	43	8.6	112.4
11 月	8	8	9	9	7	41	8.2	107.2
12 月	6	7	10	7	9	39	7.8	102.0
計	112	112	93	77	65	459	7.65	

出生と気象との関連 (第1報)

表3 職 業 2

年	48	49	50	51	52	計	平均	季節指数
1 月	26	29	26	21	27	129	25.8	105.8
2 月	25	17	30	18	25	115	23.0	94.3
3 月	37	21	22	29	24	133	26.6	109.1
4 月	32	22	11	32	14	111	22.2	91.1
5 月	33	26	21	17	29	126	25.2	103.4
6 月	23	24	9	14	15	85	17.0	69.7
7 月	30	24	24	24	25	129	25.8	105.8
8 月	26	25	32	20	26	129	25.8	105.8
9 月	18	25	28	27	22	120	24.0	98.4
10 月	36	28	30	24	20	138	27.6	113.2
11 月	27	27	29	25	21	129	25.8	105.8
12 月	24	22	25	22	26	119	23.8	97.6
計	337	292	287	273	274	1,463	24.38	

表4 職 業 3

年	48	49	50	51	52	計	平均	季節指数
1 月	37	37	37	28	26	165	33.0	95.2
2 月	36	34	37	32	25	164	32.8	94.8
3 月	54	35	35	41	29	194	38.8	111.9
4 月	41	51	36	29	29	186	37.2	107.3
5 月	48	38	38	31	28	183	36.6	105.5
6 月	42	32	33	26	31	164	32.8	94.6
7 月	35	50	30	38	23	176	35.2	101.5
8 月	41	48	37	44	32	202	40.4	116.5
9 月	44	51	37	28	30	190	38.0	109.6
10 月	37	37	35	30	33	172	34.4	99.2
11 月	31	35	29	19	22	136	27.2	78.2
12 月	43	27	33	26	20	149	29.8	85.9
計	489	475	417	372	328	2,081	34.68	

野々部定祐・野々部恒

表5 職 業 4

年	48	49	50	51	52	計	平均	季節指数
1 月	76	103	90	100	81	450	90.0	102.6
2 月	112	73	88	80	68	421	84.2	96.0
3 月	75	107	76	81	71	410	82.0	93.4
4 月	85	109	77	107	71	449	89.8	102.3
5 月	82	84	89	68	105	428	85.6	97.5
6 月	97	91	92	91	87	458	91.6	104.4
7 月	101	106	83	89	90	469	93.8	106.9
8 月	95	98	90	96	86	465	93.0	106.0
9 月	103	102	78	92	77	452	90.4	103.0
10 月	77	96	94	96	105	468	93.6	106.7
11 月	96	75	75	79	81	406	66.2	75.4
12 月	87	81	83	76	62	389	77.8	88.7
計	1,086	1,125	1,015	1,055	984	5,265	87.75	

表6 職 業 5

年	48	49	50	51	52	計	平均	季節指数
1 月	74	80	65	88	45	352	70.4	93.1
2 月	71	66	69	80	73	359	71.8	94.9
3 月	74	72	61	76	78	361	72.2	95.5
4 月	72	74	93	69	67	375	75.0	99.2
5 月	84	91	84	67	63	389	77.8	102.9
6 月	69	74	78	72	67	360	72.0	95.2
7 月	84	84	94	75	75	412	82.4	109.0
8 月	88	87	86	86	86	433	86.6	114.5
9 月	84	92	81	78	62	397	74.4	105.0
10 月	82	98	75	62	68	385	77.0	101.8
11 月	64	85	65	65	62	341	68.2	90.2
12 月	85	92	62	76	58	373	74.6	98.7
計	931	995	913	894	804	4,537	75.62	

出生と気象との関連（第1報）

表7 職 業 6

年	48	49	50	51	52	計	平均	季節指数
1 月	23	16	15	12	19	85	17.0	120.3
2 月	14	10	17	12	13	66	13.2	93.4
3 月	21	15	15	9	12	72	14.4	101.9
4 月	15	16	15	10	9	65	13.0	92.0
5 月	20	13	8	14	15	70	14.0	99.1
6 月	10	15	8	12	12	57	11.4	80.7
7 月	10	17	21	18	16	85	17.0	120.3
8 月	13	11	15	15	10	62	12.4	87.8
9 月	11	18	10	17	17	80	16.0	113.2
10 月	20	20	11	11	21	80	16.0	113.2
11 月	17	14	9	9	13	59	11.8	83.5
12 月	14	21	9	9	13	67	13.4	94.8
計	193	186	158	141	170	848	141.3	

3 考 察

季節指数について、熊谷保健所管内の全出生については11月に91.1%の最低値があり、その次の低い値は6月の94.8%である。職業1の専業農家については5月に68.0%の最低値がある。職業2の兼業農家では6月に69.7%の最低値がある。職業3の自営業者では11月に78.2%の最低値があり、6月には94.6%と少々小さい低値を作っている。職業4のホワイトカラーでは11月に75.8%の最低値があり、職業5のブルーカラーでは11月に90.2%の最低値がある。業職6のその他では6月)80.7%の最低値があった。

兼業農家と言うのは農業に自営業または勤労者、その他を兼業するものだから、それらの影響があると思われるが、農業もある程度、重要な役割を営む。

そこで職業1と職業2の農業者では5月を中心として5・6月に最低値があると思われ、職業4および職業5の勤労者では11月に最低値があると思われる。

熊谷保健所管内は大体、農業を主としているので、自営業や勤労者も農業の影響を多少受けているが、農繁期に関連して、専業農家では5月、兼業農家では6月に出生が減ると思われる。そして勤労者では11月に出生の減

少を生じていると思われる。職業3の自営業と職業6のその他は、農業者と勤労者の中間の値を示していると思われる。

4 結 論

すなわち、専業農家は5月に、兼業農家は6月に出生数が減少し、勤労者はホワイトカラー・ブルーカラーともに、11月に出生数の減少を認めたが、ホワイトカラーの方が著明であった。自営業者では11月にホワイトカラーとブルーカラーの中間の程度の減少を認めた。すなわち農業に依存する生活者では5～6月に、一般の勤労生活をする人々では11月に出生数の季節指数の減少する事実を認めた。

本報告は第43回日本温泉気候物理医学会総会で昭和53年5月28日、岐阜県下呂温泉において発表した。

文 献

- 1) 立川 清：衛生統計テキスト，改訂増補21版，第一出版株式会社，東京，昭和50年10月，168頁
- 2) 立川 清：衛生統計テキスト，改訂増補21版，第一出版株式会社，東京，昭和50年10月，156頁